

ミャンマー、バングラデシュ、
インドネシア編 上

出席者

石黒崇・小島衣料社長
福澤篤・丸久経営顧問
長尾哲夫・サンエヌ社長



各国、各工場の事情を報告するパネリスト

アジアのAPレル
生産新時代を担う

●AAP設立7周年シンポジウムから

③

—APレル生産にとってこの6年間はどんな状況だったか。石黒(ミャンマー) 社長に就任して5年目。そういう意味であつという間の6年間だった。14年に小島衣料ミャンマーを作つたほか、バングラデシュの工場も含めて、ASEAN(東南アジア諸国連合) 尽くし、バングラデシュの6年間だったと言える。

—APレル生産にとってこの6年間はどんな状況だったか。石黒(ミャンマー) 社長に就任して5年目。そういう意味であつという間の6年間だった。14年に小島衣料ミャンマーを作つたほか、バングラデシュの工場も含めて、ASEAN(東南アジア諸国連合) 尽くし、バングラデシュの6年間だったと言える。

バングラデシュは 人を選べる環境

福澤(バングラデシュ) いくつかのポイントがある。カットソーに関して原産地規則が2工程から1工程に変更されたことで、川上のインフラが弱い国にメリットが生じ、バングラデシュの強みが発揮しにくくなった。あとは日本市場の衣料品のデフレが進み、仕

入原価低減としてコスト削減が勝ち残りの条件となったこと。労働者が減り、賃金が上昇したことを受けて、インドネシアに行つたのが11年。つまりインドネシアで色々と汗をかいて、一生懸命仕事をしたのがこの6年間だ。—アジアの工場を取り巻く環境変化について。まずは人件費の

パシフィックは、10年時点で67%、今年は117%。ワーカーの定着率は高い。長尾 工場はちょっと田舎にある。バンドンから少し離れた場所、最低賃金は13年度が90%で、17年度は139%となっている。—労働者の集まり具合は。石黒 ヤンゴンから北に170km、車で3時間半かかる場所に工場は位置している。縫製の経験者がいないのは大変で、3日や1週間で辞めたいということが多い。福澤 同業他社が腐るほどあり、募集広告を出すと100人は並んでいる。ほぼ経験者で今のところ選べる環境にある。長尾 募集すると人が来すぎて困っている。例えば30人のチームを作ろうとすると300人くらいが応募してくる。離職率も去年1年間で4.6%と低く、ほぼ辞めない。